○　○　○　○　○

地域医会だより

県央皮膚科医の会

2020年度は県央皮膚科医の会および大和市皮膚科医会の講演会は新型コロナウイルス感染症の影響で開催することができませんでした。

2021年度につきましては、両医会ともWebによる開催を予定しております。

（文責：矢口　厚）

○　○　○　○　○

地域医会だより

横浜市皮膚科医会

【2020年度の事業報告】

１．例会について

●第155回例会　中止

●第156回例会　中止

●第157回例会

日　　時：2021年10月15日（金）　Web配信

教育講演１：COVID-19の陰で、忘れてはならない麻疹

講　　師：関東中央病院皮膚科特別顧問　日野治子先生

麻疹は、2019年に大きな流行をしたが、COVID-19の流行の陰で、2020年に入って、まだ数えるほどしか報告されていない。外国との往来が制限され、海外から持ち込まれることが少なかったこと、手洗い・嗽・３密を避けるなどの感染症対策も有効だったと推測される。

一方で、国内発症で感染源の不明の麻疹例の報告もあり、無視はできない。2015年３月WPROが日本から麻疹の土着株が排除されたと認定したが、このまま麻疹そのものが日本から撲滅されること、さらには、痘瘡と同様に地球上から消滅されることが望ましい。麻疹は空気感染・飛沫感染で伝播し、感染力が強く、抗体のない場合に麻疹ウイルスに曝露されると、感染率は90％以上と言われている。

高熱、皮疹、Koplik斑などから、麻疹を疑うのは当然ながら、麻疹には通常の経過をたどる病態のほかに修飾麻疹、SSPEなどの病態がある。さらに、麻疹より報告例数の多い風疹や治療に使用した薬剤による薬疹との鑑別が必要である。特にウイルス感染の伝染性単核球症や重症薬疹の薬剤性過敏症症候群などとの鑑別は難しい場合がある。流行中のCOVID-19も麻疹様の皮疹を呈するとの報告があり、診断に苦慮する場合が少なくない。感染症の中でも最も話題になる麻疹の臨床像および鑑別疾患を見直してみたい。

教育講演２：VPD（Vaccine Preventable Disease）の流行要因から見る現在の課題
講　　師：NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会　すがやこどもクリニック院長　菅谷明則先生
　現在、子どもだけではなく、妊婦、高齢者も含めて全ての人にワクチンを接種してVPDから守っていく、Life Course Immunizationが重要と考えられている。VPDの流行は、健康管理システムと公衆衛生システムの失敗の結果であると考えられ、その要因として、ワクチンの効果が不十分である、安全で有効なワクチンがあるが、財政的理由などで対象者に広く接種できない、推奨されているワクチンを保護者が子どもに受けさせない（Vaccine Hesitancy）場合などが考えられる。この対策として、ワクチンの有効性を科学的に評価し、すべてのワクチンを定期接種化することが重要である。また、Vaccine Hesitancyの大きな要因となる安全性の懸念に対して、ワクチン接種後の有害事象が副反応か否か科学的に判定し、保護者や被接種者と情報を共有することも重要となる。VPDの流行をおさえ、Life Course Immunizationを達成するためには、ワクチンの有効性と安全性を科学的に評価し、「専門家」が予防接種施策を構築していくことができる本当の意味でのNational Immunization Technical Advisory Groupsが必要である。

病 院 紹 介：聖マリアンナ医大横浜市西部病院　村上富美子先生

特 別 講 演：皮膚科医が目指すアトピー性皮膚炎の治療ゴールは？
講　　師：広島大学大学院医科学系研究科皮膚科学准教授　田中暁生先生
　アトピー性皮膚炎における薬物療法は、保湿外用剤を中心としたスキンケアとステロイド外用剤やタクロリムス軟膏、デルゴシチニブ軟膏などの抗炎症外用剤を用いた炎症制御よりなる。理想的なアトピー性皮膚炎の治療は、抗炎症外用剤によってできうる限り早期に寛解させ、長期間寛解状態を維持することである。そして、最終的には抗炎症外用剤を使用しなくてもスキンケアのみで寛解状態を維持することを目指す。
　アトピー性皮膚炎の治療で皮膚炎を制御できない場合は、抗炎症外用剤の外用量が不十分で、外用方法も不適切であることが多い。患者が適切な塗り方を知らない、あるいは外用剤に対する必要以上の恐怖感から、処方医が期待している外用剤の使用量と患者の実際の使用量が乖離していることは珍しくない。そのため、病勢を制御できない場合は、自宅で行っている外用方法や患者が抱いている治療に対する不満、外用剤に対する不安を確認することが重要である。
　アトピー性皮膚炎の診療では、診断をして薬を処方するだけでは不十分であり、外用指導や患者の治療アドヒアランスを維持するような助言などの診察スキルが必要となる。その一方で、適切な外用治療を行っても重症・難治性状態の症例も存在する。そのような症例に対しては全身療法を選択する場合もあり、その一つの選択肢としてデュピルマブが登場したことはこれまでのアトピー性皮膚炎診療の流れを大きく変えるきっかけとなった。アトピー性皮膚炎の病態の中心にあるとされる２型炎症のサイトカインであるIL-4とIL-13を阻害するデュピルマブは、皮膚のバリア障害、アレルギー炎症、かゆみのいずれにも効果を発揮し、標準治療では寛解が難しかった症例において、抗炎症外用薬との併用によって寛解導入と寛解維持の両方が可能となった。2019年５月からはデュピルマブの在宅自己注射が可能になり、これにより通院頻度など患者さんの負担を軽減できる可能性がある。
参　加　者：57名

２．第11回市民公開講座

日　時：2021年３月14日（日）　Web開催（共催：サンファーマ株式会社）
メインテーマ：しなやかで健康な髪を守るために知っておきたいこと
講演１：知っておきたい髪のしくみとトラブル
講　師：齊藤典充先生
講演２：知っておきたい毛染めのトラブル

講　師：中田土起丈先生
講演３：知っておきたい地肌ケア・ヘアケアのコツ
講　師：野村有子先生
参加者：108名

３．医師会関連イベント

●ラジオ日本「みんなの健康ラジオ」
日　時：2020年10月１日（木）・８日（木）放送
テーマ：紫外線による皮膚トラブルの話
担　当：澤田俊一先生

●第28回横浜臨床医学会学術集談会
日　時：2020年12月５日（土）
会　場：崎陽軒本店
講　師：野村有子先生
テーマ：AYA世代ニキビに対応するコツ
参加者：会場参加79名、YouTube視聴者88名

●横浜市医師会第561回医学研修の日
日　時：2021年３月23日（火）
会　場：横浜ベイシェラトンホテル
テーマ：薬疹の話
講　師：池澤善郎先生
参加者：会場参加34名、YouTube視聴者116名

（文責：高橋泰英）

○　○　○　○　○

地域医会だより

鎌倉市医師会皮膚科部会

●第12回例会・講演会

日　時：2020年４月９日（木）

会　場：KOTOWA鎌倉 鶴ヶ岡会館

講演Ⅰ：皮膚外用剤 out of date

講　師：杏雲堂病院　大谷道輝先生

講演Ⅱ：乾癬外用治療 Up to Date

講　師：東京慈恵会医科大学　伊藤寿啓先生

新型コロナウイルス感染症の拡大によりやむを得ず中止とし、秋以降の開催を予定しています。

（文責：原　尚道）

○　○　○　○　○

地域医会だより

藤沢市皮膚科医会

例会

●2020年

予定の７月の例会はCOVID-19の影響のため中止となりました。

日　時：2020年７月８日（水）　中止

日　時：2020年11月25日（水）19：30 ～

会　場：藤沢市医師会館

講　師：島根大学医学部皮膚科学講座准教授　千貫祐子先生

テーマ：日常診療で診る！　蕁麻疹・アレルギー最新情報

共　催：田辺三菱製薬株式会社

●2021年

日　時：2021年３月24日（水）19：30 ～ 20：30　Web配信

講　師：東京慈恵会医科大学皮膚科学講座講師　石氏陽三先生

テーマ：アトピー性皮膚炎の痒み

共　催：マルホ株式会社

（文責：小林誠一郎）

○　○　○　○　○

地域医会だより

川崎市皮膚科医会

●川崎市皮膚科医会第18回定時総会・第27回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、第27回川崎市皮膚科医会例会学術講演会の開催は中止となり、川崎市皮膚科医会第18回定時総会は書面での議決となりました。41票の有効票のうち賛成41票で、第１号議案「令和元年度事業報告に関する件」以降、第５号議案「役員人事に関する件」まで、会則に則り全ての議案が可決されました。また、令和２年度版川崎市皮膚科医会会員名簿と川崎市皮膚科医会会報第15号を会員に郵送にて配布しました。

●川崎市市民公開講座

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、川崎市市民公開講座の開催は中止となりました。

（文責：渡部秀憲）

○　○　○　○　○

地域医会だより

三浦半島皮膚科懇話会
横須賀市医師会皮膚科部会

コロナ禍で活動を休止していました。

残念です。

来年度に期待したいと思います。

（文責：金丸哲山）

○　○　○　○　○

地域医会だより

小田原皮膚科医会

昨年は、コロナ禍の中、全てが中止となりました。

昨年９月に予定しておりました東北大学の山崎研志先生の講演は延期となり、今年９月16日に予定しております。

（文責：戸澤孝之）

○　○　○　○　○

地域医会だより

茅ヶ崎医師会皮膚科部会

茅ヶ崎医師会皮膚科部会からは報告事項はありません。

（文責：眞鍋泰明）

○　○　○　○　○

地域医会だより

平塚市医師会皮膚科部会

当会は、年に３回、例会を開催してきました。2020年は１月には開催できましたが、その後、新型コロナウイルス感染症流行のため、開催を断念しています。再開できる日を待ち望んでいます。

（文責：木花　光）

○　○　○　○　○

地域医会だより

厚木市皮膚科医会

例会は原則中止でしたが、別枠として相模原市医師会皮膚泌尿器科医会とジョイントで、2021年２月18日(木)、Webとのハイブリッドで下記のように開催致しました。

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会、厚木市皮膚科医会学術講演会

ショートレクチャー：当院での多汗症治療について

講　　師：西大沼皮フ科クリニック　高須　博先生

特別講演：疣贅治療を考える

講　　師：北里大学客員教授　江川清文先生

私事で、どちらかというと「皮膚の健康委員会」関係と考えますが、この委員会も中止を余儀なくされており、ここに報告致します。

県医師会学校医部会でリーフレット作成を依頼され、2020年内に校正などを終了。2021年に配布する事となりました。

リーフレットの表題は「小児期からの紫外線対策」というもので、これを作成、配布の運びとなりました。

（文責：小幡秀一）

○　○　○　○　○

地域医会だより

丹沢皮膚の会

今年度の活動はありませんでした。

（文責：加藤正幸）

○　○　○　○　○

地域医会だより

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

2020年度事業報告

2020年度の学術講演会を下記の通り開催いたしました。

第221回学術講演会（厚木市皮膚科医会と共催で行いました）

日　時：2021年２月18日（木）19：20～
会　場：相模原南メディカルセンター大会議室ならびにZoomウェビナーにてライブ配信
ショートレクチャー：当院での多汗症治療について
講　　師：西大沼皮フ科クリニック　高須　博先生
特別講演：疣贅治療を考える
講　　師：北里大学客員教授　江川清文先生
共　　催：厚木市皮膚科医会、相模原市医師会皮膚泌尿器科医会、マルホ株式会社

疾病の予防、診断と治療にあたっては、その病因・病態について正しく理解しておくことが大切である。講演では、先ず疣贅の病因・病態に関する最新の知見を紹介した。治療に関しては、総論として従来考えられて来た基底細胞以外にも毛嚢や汗管がHPVの感染標的となっていることや疣贅周囲の正常皮膚にもHPVが潜伏感染していることを示し、これらの知見に即した治療の必要性を述べたあと、各論として日本皮膚科学会尋常性疣贅診療ガイドライン2019や演者の実践する治療アルゴリズムについて解説した。

（文責：高須　博）